

読書の秋 『家読』 のすすめ



少し涼しい秋の空気が心地よい季節になりました。いよいよ秋本番。この季節は物事に集中して取り組むことに適した時期で、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋など、様々な秋の取り組みがあります。では、なぜ読書の秋なのでしょう？中国・唐代の文人である韓愈（かんゆ）が残した誌の中に「燈火（とうか）親しむべし」という一説があります。この誌は、「秋の夜は涼しさが気持ちよく、あかり（灯光）で読書をするにはもってこい」という意味で、この言葉が、読書の秋の由来になっているそうです。

さて、活字離れの問題が提起されて久しいのですが、本来、子どもたちは、読書が大好きです。『BMゆうがお』が学校に来ると、たくさん子どもたちが集まってきます。昼休みなども図書室で目を輝かせながら読書に夢中になっている子どもがいます。食欲の秋、食べ物は健康な体を作る栄養になりますが、読書は知識や考え方を育て、心や頭を育てる栄養になります。子どもたちの読書意欲を高めるために、是非ご家庭でもご協力をお願いしたいと思います。では、ご家庭でどんなことができるのでしょうか？例えば、『読み聞かせ』をする、大人が読書をしてモデルを示す、本屋さんや図書館に行ってお一緒に良い本を選ぶ。大人が読書好きになり、本との出会いをたくさん演出してあげることがとても大切だと思います。

本校では、**10月16日(月)～10月27日(金)**を**校内読書旬間**とし、『読書感想文・標語の募集』『読み聞かせ』、図書委員による『必読図書に関するクイズ』『1年生への紙芝居の読み聞かせ』を実施します。

また、壬生町内の小中学校では保護者の皆様に『テレビを消して会話や読書』をお願いしています。

読書の秋 『家読(うちどく)』のすすめ

読書習慣を家庭に広めようというのが『家読』です。

『家読』の基本は、【家族で同じ本を読もう！】【読んだ本で話そう！】です。

『読書の秋』に望ましい読書習慣を身につけ、たくさん本を読むことを通して集中力や読解力、そして豊かな創造力を育みましょう。

『新学習指導要領』の実施に向けて

平成32年度から児童を指導していく上での基本となる『学習指導要領』が新しくなります。平成30年度は、その移行期間として道徳と英語（5・6年生）が教科になります。

本校では、次年度の道徳の教科化に向けて、10月4日に白鷗大学の中山先生をお迎えし、全職員で研修を行いました。また、11月7日には、下都賀地区の先生方に参加していただき、3名の教員が研究授業を行います。

英語については、『総合的な学習の時間』の時数を削減し、5・6年生は英語として70時間、3・4年生は外国語活動として35時間、1・2年生は外国語活動として20時間の授業を実施する予定です。

また、『新学習指導要領』では『主体的・対話的で深い学び』が求められます。本校では、学校課題を『知識・技能を活用する力を高める』として、昨年度は算数、今年度は国語を中心に、『主体的・対話的で深い学び』の授業をどのように展開していくか、全職員で研修をしています。10月11日には、1・3・5年生で研究授業を行い、全職員で研修を行いました。11月29日には2・4・6年生で研究授業・研修を実施する予定です。

さらに『プログラミング教育』も実施になります。これについても、情報教育を担当する教員を中心に、どのように指導を進めるか、先進校の事例などをもとに準備が進んでいます。

